未来EDIプロトコルによる

ESP間連携の結果報告

2018/1/25 グローバルワイズ　山下

# 未来EDIプロトコルの仕様（概略）

連携アドレスを用いて、異なるクラウドサービス間でデータ交換を行う。

連携アドレス

・username@domain

usetname：ローカルのESPユーザーアドレス

domain：グローバルに一意になるESPアドレス

連携アドレスを指定することで相手のクラウドサービスにデータを送信する。

クラウド

サービスA

クラウド

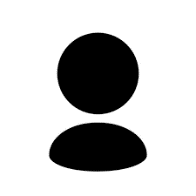
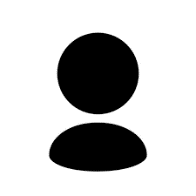
サービスB

ESPドメイン：ABC

ESPドメイン：XYZ

未来EDI

プロトコル



ユーザー：abc

ユーザー：xyz

ユーザーabcがユーザーxyzにデータを送信する場合、

From: abc@ABC To:xyz@XYZ と指定

## ESPとドメインのリポジトリ

相手のESPと情報交換する場合、ESPドメインからESPクラウドサービスのURIを特定し、相手の未来EDIプロトコルサービスを実行する必要がある。

ESPドメインとESPクラウドサービスURIを管理したリポジトリを用意する。ESPドメインからサービスURIを特定し、相手のサービスを実行することによりESP同士で情報交換を行う。（DNSのような仕組み。ただし、詳細は現段階で未決）

クラウド

サービスA

クラウド

サービスB

ESPドメイン

リポジトリ

リポジトリ

クラウドB ドメイン：XYZ

URI:https://○○○/△△

URI：https://○○○/△△

ESPドメイン：XYZ

XYZはどこ？

https://○○○/△△だよ

未来EDI

プロトコル

中継ESP

ESP同士の通信では、一定のセキュリティ及び認証が必要となる。ひとつのESPが他の全てのESPのセキュリテイ要件を満たすことは不可能であるため、ブリッジとなるESPドメインを中継し、相手のESPと情報を交換する。

クラウド

サービスA

クラウド

サービスB

未来EDI

中継ESP

クラウドBに直接通信できないのでお願い！！

未来EDI

プロトコル

未来EDI

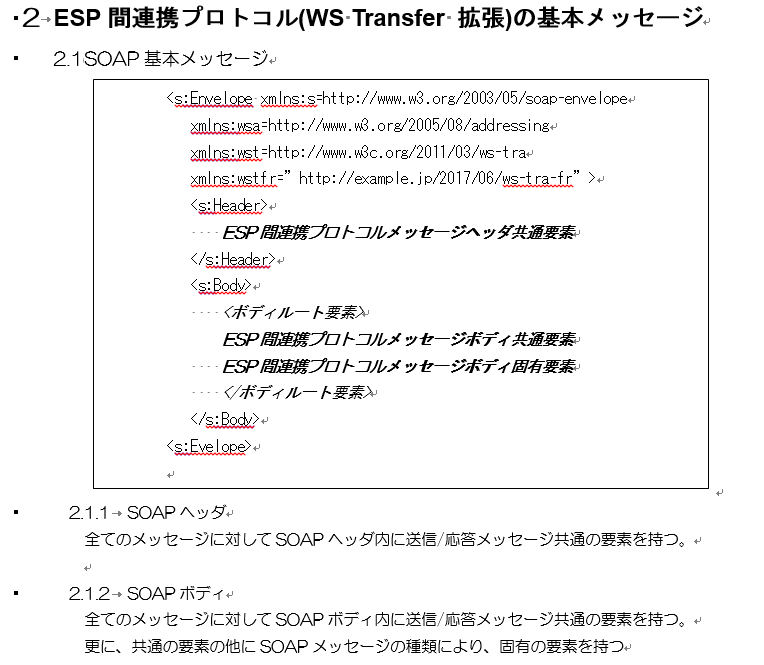
プロトコル

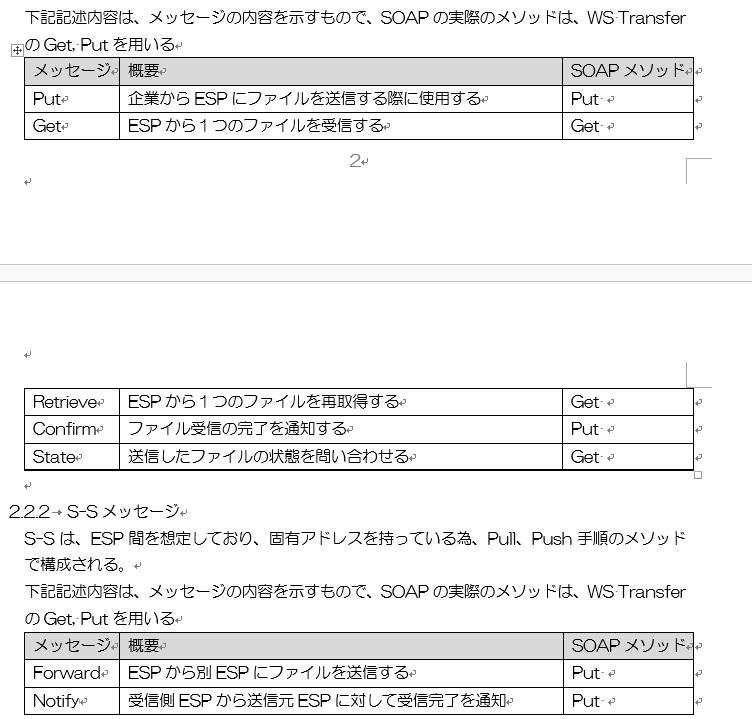
クラウドBの接続を代行して情報交換

## プロトコルメッセージ

プロトコルメッセージは、SOAPを使用し、W3CのWS Transferを採用している。

プロトコル仕様抜粋





## ESP連携のテストパターン

### 異なる会社で開発した未来EDIプロトコルの接続テスト

・エクス殿、グローバルワイズ、アプストウェブ殿のアプリ間で注文情報の送信、注文回答の返信を、未来EDIプロトコルを通じて行った。

電脳工場

EDIFAS

エクス殿

グローバルワイズ

アプストウェブ殿

未来EDIプロトコルサーバー

EcoChange

コンテキサー＋EcoChange Agent

簡易ERP

未来EDI

プロトコル

Eco Change

Agent

プロトコル

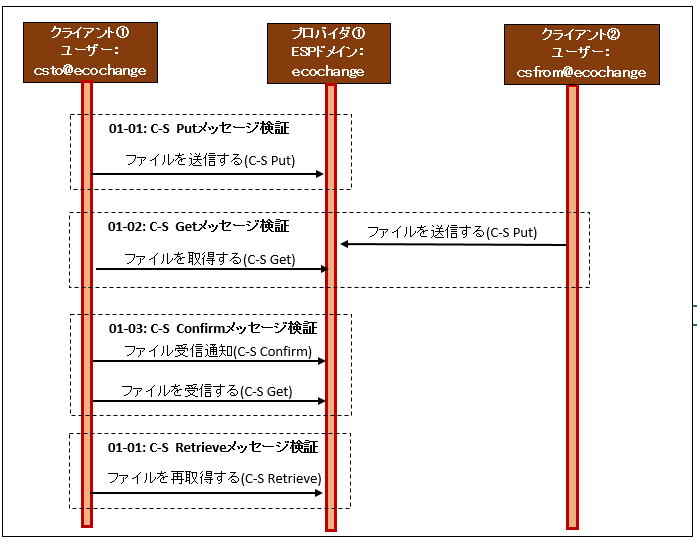
1. 注文
2. 注文
3. 注文回答文
4. 注文回答文

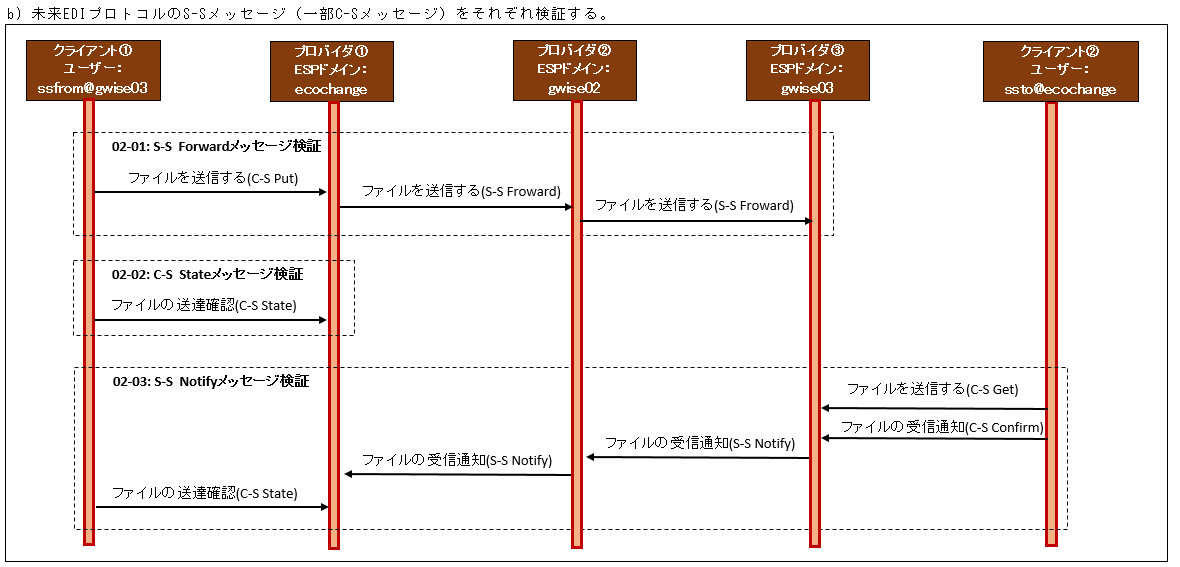
未来EDIプロトコルで通信

未来EDI通信プロトコル仕様書に基づき、エクス殿、グローバルワイズでそれぞれプロトコルを開発した。

別々に開発した為、接続、疎通に不安があったが、問題なく接続できたことを確認した。

### 未来EDIプロトコルの全てのメッセージのテスト（グローバルワイズ）





C-Sメッセージ、S-Sメッセージ共に、問題なく接続できたことを確認した。